

## 令和7年度第2回壬生町企画委員会会議 結果概要

1 開催日時：令和7年7月30日（水） 13:30～15:30まで

2 開催場所：壬生町役場新庁舎2階 特別会議室 1・2

3 出席者：11名

島田委員（会長）、山杉委員（副会長）、斎藤委員、樺沢委員、山縣委員、  
永尾委員、大橋委員、佐藤委員、岡田委員、川俣委員、田邊委員

4 会議内容：令和6年度に実施した第2期壬生町創生総合戦略関連事業、国土強靱化地域計画及び地方創生関連交付金事業についての効果検証

5 委員からの主な意見：

### (1) 第2期壬生町創生総合戦略の効果検証について

委員：地域ブランド品目認定数について、実績値の代表のブランド品として「かんぴょうミルクアイス」となっているが、本気で地域ブランドの認定について取り組んでいるのだろうかと思う。かんぴょうにこだわることもないのではないか。ただし、壬生町の特徴としてかんぴょうはいちご以上に壬生町のブランドにふさわしいと思う。やるからには徹底して取り組む必要があると思う。いつもニュースではかんぴょうむきをやっているが、かんぴょうはゆうがおの実を干したものだから、それだけにこだわらず、ふくべ細工とかそういった物も含めて幅広く取り組むことができないかと思う。本気度が問われると感じた理由は、かんぴょうの加工品をよく買っており、道の駅で売っているのを発見したが、産地が中国産で、なぜ壬生町産ではないのか？と思い、あまりPRに本気ではないのではないかと思ってしまった。ブランドとしてやるからには本気でやってほしいと思っている。

委員：最近、道の駅等にかんぴょうとしてではなく、ふくべとして持っていくこともあるので、かんぴょうとしてこだわらず、ふくべ細工等でのPRも考えていくべきなのかもしれない

事務局：かんぴょうのPRはまだまだ足りない部分があると思われる。町の資源としては重要なものだと考えている。ブランドに認定された商店は、かんぴょうを家業としており、広めていきたいと考えて活動していただいている。万博でもかんぴょうが注目され、栃木県のブースでもさびかんを提供しPRしてきたが、まだまだ足りず、町のPRが弱いと思われるので引き続きPRをしていきたい。中国産という話も出たが、生産者の減少も課題となっている為、国内の生産者を増やす部分も課題として検討をしていかないといけないと考えている。

委員：壬生としてかんぴょうをPRしていくのであれば、中国産ではなく、壬生町産というのはとても重要になってくると思う。

事務局：委員ご指摘のとおり、国産というのはとても重要と考えているので、イメージを落とさないように制限がどこまでできるかわからないが、国産と中国産とのすみ分けができるように検討していきます。

委員：戦略プロジェクト1-1 産業の振興と雇用の創出について、努力が必要というわけではないが、すでに新たな分譲用地がないということで、現在もないということだったか。

事務局：産業団地は、羽生田産業団地(ファナックのある場所)の道路を挟んだ反対側に整備中であり、今年度分譲予定。

委員：データセンターは水が必要とはなるが誘致ができないものか町としても検討してほしい。

事務局：データセンターについては、委員がおっしゃる通り、水が必要となるが、羽生田産業団地では十分な水が出ないため、水を必要としない工場の誘致をしていく予定。

委員：面積は小さいがふれあいプールの跡地などではどうか？

事務局：面積が小さいのと災害の際に浸水想定区域の為、難しい。様々な法律や条件に合う場所は少ないかもしれないが、新たな開発が可能な場所の検討は今後もする必要があるので考えております。

委員：認定農業者数が法人含むと書かれているが、法人の数は？認定新規就農者から認定農業者へ移行を図るとなっているが、移行を図るとはどういうことを示しているのか。また、どんなことを行っているのか。

事務局：法人の数は把握していない。

認定新規就農者から認定農業者への移行を図るという部分は、農業を始めた方が認定新規就農者となり、ある程度生産等をきちんとできるようになった方を認定農業者にしていく。町農政課や JA、栃木の振興事務所などと協力をし、いちごやトマトの作り方等の指導を行いながらきちんとした農産物ができるように指導などを行い育てていく。

委員：特定検診受診率について、分析評価の中で、最初につまずきとあるが何を指すか。

事務局：コロナにより事業の実施ができなくなってしまったことをつまずきと表記している。

委員：受診率については現状の値でも良いのではないか。受診しない人というのは、かかりつけ医で見られているのではないだろうか。その為、指標を国民健康保険の請求額にしても良いのではないか。もしくは請求額を減らすような指標でも良いのでは。

事務局：指標としてはわかりやすいと考えられる。考え方として、財政面という部分で考えるか健康な方を増やすために受診率を上げるかとなるため、どちらが分かりやすいかも含めて検討していきたい。

委員：目標 1 の認定農業者の数は減ってきており、目標値の設定に乖離ができていないか。また、大規模化についての考えはあるか。

事務局：認定農業者の目標値は増える前提で作成してしまっている。次期計画では認定農業者数は別の指標に変更予定。新規就農者数は残す形を予定している。大規模化についての設定は検討していない。今後、検討をし、大規模化を進めてはいきたいと考えている。

会長：「第 2 期壬生町創生総合戦略の効果検証」について適当ということによろしいか。

委員：全員承認

## (2) 国土強靱化地域計画の効果検証について

委員：自主防災組織の話は昨年や総合戦略の委員会でも言いましたが、別の計画では創生総合戦略は 7 年度の目標値は 40 団体で、40 団体とは 81 団体のうち 40 のため大体半分となるが、今度の第 7 次の総合振興計画の目標では、令和 12 年で 49 団体という形に、前回の会議資料を見ると、書いてある。国土強靱化計画は、リニューアルするとき、そのあたりの整合性はとる予定でしょうか。

事務局：見直しをかける予定だが、まだ国土強靱化計画の見直しに着手してないところですので、検討したうえで見直す予定でおります。

委員：ブロック塀についてですが、目標値が 0 となっており、この長さというのは今あるブロック塀の長さを言っているのか？この 829m は現在ある危険等調査したブロック塀のことでよい？

事務局：829m は 3 小学校の外周のブロック塀の長さ。829m すべてがブロック塀ではなく、例として塀の高さが 1m だとして、全てがブロック塀ではなく、そのうち 1/3 がブロック塀でその上がフェンスというような形状

になっている。そのため、危険という記載になっているが、倒壊した場合、2/3 がメッシュフェンスとなっている状態のためブロック塀の下敷きになる危険性はない状態になっている。ただし、土台のブロック塀が劣化しているというところはあると思われるので、改修は必要となり、記載されている。

委員：昨年、通学路のカーブミラーが倒れてけがをしたという話題があったが、その辺りは何か点検したのか。

事務局：カーブミラー等劣化している箇所もありますが、すべての安全点検については、実施できていない。担当には安全面の確認をするように伝えてはおりますが、全ての点検には実際には至っていない。

委員：効果検証ということではないが、次に改定する際に、被災者等の避難環境を確実に確保するという点で、壬生町の小学校の体育館はエアコンが完備されていない。避難の際は教室を使用するのか。夏場、体育館は厳しいと思われるがどういう態勢になっているのか。

事務局：避難として開設の際は、夏場は教室ということになっている。

委員：災害の避難所というところも考慮してエアコンをつける優先順位を上げてほしい。授業でも子供たちが使うところでもあるので。

事務局：委員のおっしゃるとおりであり、町でも検討しているところでもあり、最優先事項の一つではあるが、その他にも修繕をしないとならない学校の箇所等もあり、まずは中学校を優先して整備をしている。小学校に関してはまず大規模校である壬生小学校から順次整備をと考えております。

会長：「国土強靱化地域計画の効果検証」について適当ということではよろしいか。

委員：全員承認

### (3) 地方創生関連交付金事業の効果検証について

地方創生拠点整備交付金事業

「低年齢児向け“おもちゃ博物館”リノベーション事業」

委員：リノベーションについての内容は大変良いことだと思われる。

デジタル田園都市国家構想推進交付金事業

「Mibu Love Active ～道の駅から始まるいちごとおもちゃのまちづくり～」

委員：KPI で「いちごの生産面積」とあるが、今後の取組でいちごの生産に付加価値や生産者の収入増、農工商連携に力を入れていくとなっているが、KPI は「いちごの売上高」の方が良いのではないか。いちごの生産面積では農家だけ。売上高なら農家が販売したいいちごのみではなく、いちごを使った商品や町内店舗でのいちご商品の売り上げとなり、生産面積だけに限らず、農工商全体の売上額の方が指標としては良いのではないか。この指標であれば、国の統計情報を待たずに、毎年実績値も知ることができるのではないか。

事務局：KPI の代替案ということについて、農工商連携の視点で見ると、生産面積だけだと農業のみの指標となってしまう、売上高の方が複合的な指標となると考えられる。このシートでは修正が難しいが、交付金の申請の際には売上高という視点も入れていきたい。

デジタル田園都市国家構想推進交付金事業

「Mibu Love Active ～道の駅から始まる La chic～」

委員：KPI「みぶハイウェーパークで販売するオリジナル商品の種類」ですが、知られていないものもあり宣伝不足と思われる。みぶブランドの認定についての際にも宣伝不足という話が出たが、実際どんな宣伝を

行っているのか。町民もよくわかっていないのではないかと。県内・県外や海外の人達に向けてどのような発信をしているのか。

事務局：主に SNS を駆使して、若い人をターゲットにしてしまっているが発信をしている。また、町民向けとしては広報紙を利用した発信もできればと思っております。

委員：SNS はインスタグラムなどか。

事務局：町の観光協会のフェイスブックやインスタグラムでの発信や町の LINE での発信を行っている。また、質問内容の中で、みぶブランド=かんぴょうと思われるように思えたが、みぶブランドは町内の商店等が色々と商品開発をしているもので、お酒やお菓子などもあり、たまたま今回はみぶブランドの紹介としてかんぴょうアイスをあげており、みぶブランドがかんぴょうだけを推しているということではなく、それ以外の商品もブランドとして認定をして出しております。

委員：道の駅は観光客が主に利用する施設ではあるが、町民が積極的に利用する施設という点での存在意義も重要であると思われる。壬生のいちごを町外に紹介することも大事だが、そちらばかりだと町内の人からかけ離れた存在に道の駅になってしまう。町内の人々が利用したくなる何かを道の駅に入れる必要があると思われる。そうでないと道の駅の関係者(農産物の納入業者等)のための場所になってしまっているので、町の人々が道の駅をどう捉えているかも考えて様々なことを検討していただきたい。

事務局：町内の人に利用していただくように促進すべきという点は、おっしゃる通りであり、今年度からは La chic Mibu が運営を行っており、町外だけでなく町内の人々の利用もなければならぬということは認識しているが、PR が不足している部分があるため、PR を積極的に行い、町内の人々の利用促進も努めてまいります。

委員：みぶハイウェイパークの施設利用者数が、道の駅の交付金事業2つの KPI に記載があるが、その違いは？

事務局：2つの国の交付金について、記載があるが、それぞれで国の担当も異なり、申請をした時期も異なるため、目標値が異なっている。

委員：2点あり、1点目は、道の駅の滞留時間を増やすことも目的になっていると思うが、道の駅で食事をし、わんぱく公園内のおもちゃ博物館まで移動となると子供連れでは大変という部分がある。公園内の移動はトレインが走っているため良いが、道の駅からの移動手段というのが課題にもなると思われるがなにか検討しているか。

2点目として、施設利用者数の目標値について、目標値が、令和7年、8年、9年で減っているのはどういうことなのか。変動が大きくあるのは何か理由があるのかどうか。

事務局：1点目につきまして、小さいお子様がいる方は、移動が大変だが、現時点では、道の駅の前 SL が展示されている箇所までは公園内を走っているわんぱくトレインが来ており、そこから道の駅に行くには横断歩道を渡る形となる。ただし、横断歩道はどうしても制約が出てしまう部分があるため、公園内はトレインでの移動が可能だが、SL が展示されている箇所から道の駅までは、歩いていただくことになってしまう。

2点目につきましては、年度ごとに増加する人数を記載しており、R7 は La chic Mibu に道の駅の業務を指定管理で委託するため、みなさんに来ていただきたいという期待も含めて目標値が増えており、翌年度以降はオープン後の為、増加幅を減らしているという表記となっております。

デジタル田園都市国家構想推進交付金事業

「稼ぐ力と地域の賑わいを創出するための拠点整備事業」

委員：チャレンジショップについて、たいらやの隣の施設だと思うが、コミュニティカフェの年間売り上げ目標が R7 で75万円、非現実的な経営状態だと思うがどういったことなのか。コミュニティカフェなら売り上げを KPI の目標にしなくても良いのではないか。子育て世帯の交流拠点の利用件数や高齢者向けの何か相談件数、イベント件数等、交流促進の数値を目標にする方が良いのではないか。売上としたらすごい数値となり、何に使っているのかとなってしまうのではないか。

事務局：こちらのシートの KPI が国の交付金を受けるための申請で、国のチェックが入っている KPI となっており、稼ぐ力という視点で KPI を示している点があり、町としてはコミュニティカフェのため、誰でも来ていただきたい思いもあるが、KPI としてはこのような指標となっている。これから募集をかけるので、誰でも来やすいような店舗として募集したいと考えている。

委員：国の指標としては売り上げにはなるが、実態としては利用者数とかで示すということか。

事務局：賑わいを創出していただき、何人来たらという指標までは考えていないが、子供から高齢者までが利用していただけるような場所となるようにということで、募集をかけていきたい。

委員：コミュニティカフェで何を売ろうとしているのか。

事務局：物販という形で、神奈川県ですで行われている場所を視察に行き、部屋の中に棚やラックなどを用意し、地域の方が作ったハンドメイドのものを物販として利用したり、ワークショップの開催等で人を呼び込めればと考えており、売り上げを重視するのではなく、人が集まる拠点となればと考えている。

委員：場所代はとる？

事務局：細かくは決めていないが、月の使用料や出店して販売料金の何%かを管理運営している方に支払うようなイメージとなるかと思われる。場所貸し+売り上げの何%という形を検討。

委員：地域人口の今後の取組として、壬生(旧役場エリア)地区の活性化につながると思うが、転入増に繋がるというのは、壬生(旧役場エリア)地区の増加なのか、壬生町全体の増加なのか、壬生町全体を目指しているなら取組が的外れではないかと思われる。

事務局：活性化だけの記載になっており、壬生(旧役場エリア)地区に対しての話ではあるが、活性化=人口増に繋がるでは、確かに表記としては的外れかと思われるので、人口増に繋がるような魅力を工夫・発信することで、壬生に住んでもらえるようになるように、取組を修正していきたいと思います。

## デジタル田園都市国家構想推進交付金事業

### 「MMS 情報を基盤とした情報公開によるまちづくりへの活用促進事業」

委員：オープンデータについて、R5 から1 つも増えていない。なぜ増えないのか。

公開型 GIS に関して、みぶ e マップのことだと思われるが、せっかくなら知ってもらうためにも文言をどこかで知らせていくべきではないか。

事務局：種類の増加について、担当課とどういったものに必要があるのかを確認し、増やすことも含めて検討していきたい。公開型 GIS について、おっしゃる通り、せっかくみぶ e マップという名称があるので、広めていけるように検討していきたい。

## デジタル田園都市国家構想推進交付金事業

### 「メタバース空間「バーチャル壬生町」を活用した DX まちづくり教育」

委員：メタバースの取組はとても良いと思うので、子供だけでなく大人も生涯学習の観点からも町の探求をやってみたいので、早く子供から大人に対しても移行してほしい。回線の重さは去年も出ており、今年も回線の重さを課題としていて、利用の停滞となっているのであれば改善が必要かと思う。。

事務局：大人の方の利用を想定していないところであり、確かにせっかく作ったものなので、仕様の確認は必要とはなるが、学校以外でも利用可能であれば使っていただくことも検討したい。回線の重さにつきましては、昨年度も同様の書き方をしており、改善が必要な部分ではあるが、なかなか施設の状況等ですぐに改善ができていない部分でもあるが、解決に向けて進めていきたい。

#### デジタル田園都市国家構想推進交付金事業

「デジタル技術を活用した行政のデジタル化による住民サービスの向上」

委員：介護保険の認定調査は、調査員は障害の方もやっていると思うので、そちらはやらないのでしょうか。

事務局：現状試行段階の為、キントーンというソフトとタブレットを使った形で実施しており、検証段階であり、利用することで事務手続きや業務の利便性の向上に繋がるものと判断ができれば、他の調査業務にも広めていきたいと考えております。

会長：「地方創生関連交付金事業の効果検証」について適当ということよろしいか。

委員：全員承認